

耳鳴りと漢方



耳鳴りは西洋医学では原因不明とされる事が多く、お医者さんへ行っても、年のせいだ、気にするな、そのうち慣れるよ・・・などと言われることが多いようです。しかし、東洋医学、中医学では、耳鳴りという症状に対してどうしてそうなるのか、まずその根本を探りますから、西洋医学とは違ったアプローチができるんですよ。ぜひ、最後まで読んでみてくださいね。

①「水毒」が原因の場合

水毒というのは、体内にたまった余計な水分の事です。水分が代謝しきれずに、耳のところでむくみを起こすと耳鳴りの症状が出てきます。めまいや頭痛をおこすこともあります。余計な水分を代謝させるには、「苓桂朮甘湯(りょうけいじゅつかんとう)」辺りが対応しますね。余計な水分をうまく捌いてくれますよ。ただし今回は、もう少し掘り下げてみましょう！本来、内蔵が元気であれば、ある程度多く摂取しても、問題なく処理できるんですよ。ところが、内蔵が弱っていると、うまく吸収できない、うまく巡らすことができない、うまく排泄できない、となつて体の各所でむくみが起きるわけです。漢方らしく五臓で言うと、吸収は脾、巡らすのは肺、出すのは腎です。

そしてそれらをコントロールするのが肝なんです。

つまり五臓のうち四臓が関わるわけで、体全体の問題であるわけですね。



クラシエ
苓桂朮甘湯

②「血(けつ)」が問題である場合

血とは栄養みたいなイメージでお考え下さいね。血が原因の場合、ここから更に2つにわかれます。

血がたりていない「血虚(けつきょ)」と、血が滞っている「血瘀(けつお)」の2パターンです。

どちらにしても、栄養である血が、耳まで届いていない事が原因で、症状が出てきます。

代表的なものですが、血が不足している「血虚」では「七物降下湯(しちもつこうかとう)」、ストレスが原因で滞っている場合は「抑肝散加芍薬黄連(よくかんさんかしやくやくおうれん)」です。



クラシエ
七物降下湯



クラシエ
抑肝散加芍薬黄連

③年のせいである場合

年齢とともに誰しも疲れてくる臓器は「腎」です。

中医学では、腎は耳に直結していますし、また、①の水分代謝も腎の働きですし、②の血を作り出すにあたっても腎がかかわります。

「年のせい」という表現になりますが、中医学的には「腎の弱り」です。老化に抗うのはなかなか難しいものではありませんが、漢方には「補腎」という考え方があります。そのまま、腎を補いましょうということです。補腎の漢方薬、生薬はいろいろあるんですが、

「八味地黄丸(はちみじおうがん)」は、体を温め、体全体の機能低下を改善する効果があります。四肢が冷えやすい、夜中トイレに起きる方に適しています。「八味地黄丸(はちみじおうがん)」に更に、2生薬加えたものが、「牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)」となります。とくに、尿量減少、腰痛、下肢のむくみの強いものなどに用いられるほか、下半身の痛みにオススメです。

耳鳴りは、症状の後ろに重大な病気が隠れている場合もあります。まずは、1度検査していただいた方が良いでしょう。

そのうえで、異常なし、歳のせいだ、気にするな、なんて言われてしまった時は、ぜひ、ハシドラッグにご相談下さいね。



クラシエ
八味地黄丸



クラシエ
牛車腎気丸

漢方小僧ことハシドラッグ西店所属、登録販売者八巻慎弥です。今回で3回目の連載となりました！これからも漢方を勉強してまいりますので、お困りの症状がある方は、一緒に考えてみませんか。